

2011年4月11日福島県直下型地震による土砂災害調査(速報)

独立行政法人 防災科学技術研究所

[調査者]

土志田正二・内山庄一郎・鈴木比奈子・井口隆 (社会防災システム研究領域)



[本報告に関する連絡先]

(独) 防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域 研究員

土志田正二: sdoshida@bosai.go.jp

2011年4月14日(木)

1. 福島県いわき市 田人中学校北部の林道 (14:00)

田人中学校北部の林道沿いの箇所において落石による通行止めを確認。地質は緑色片岩。最大転石は3×2×2m程度のブロック状であった。



2. 福島県いわき市 御齊所街道 (15:00)

14日15:00現在、警察・消防・自衛隊による捜索活動のため完全通行止め。地すべり発生地域内に数台の車が走行中であったという。このため、東側の一部のみしか見ることができず、災害の規模は不明。写真左表層を見る限り強く風化した砂岩が主体であり、一部泥岩も見られた。



3. 福島県いわき市 御齊所街道沿い (16:00)

御齊所街道沿い(県道 14 号)に、多数の表層崩壊地が現れていた。今回の 2011 年 4 月 11 日に発生した地震において、この街道沿いに多くの土砂災害が発生していると感じられる。



4. 福島県いわき市渡辺町上釜戸周辺 (16:30)

地すべり発生地域。移動体内部には、いくつかのナイフリッジの形成が確認された。地質は砂岩主体。滑落崖は尾根に平行に長い。一部しか踏査できなかつたことから、冒頭のインデックスマップに記載した地すべり範囲は推定であり、空中写真等を取得後に精密な範囲を特定する。



地すべり移動体末端部からの撮影(2 枚の写真の重ね合わせ)。いくつかのナイフリッジが形成されているため、地すべり移動体下部からでは滑落崖を確認することができない。



地すべり移動体内部。左図は地すべり移動体の末端部に近い位置であり，右図は左図正面に見える小丘を越えてからの写真。左に見えるのは側方崖だが，正面に滑落崖のように見えるのは1つのナイフリッジ。今回の調査では，このナイフリッジの上部までしか行けなかった。（時間があれば滑落崖まで到達は可能と思われる。）



ナイフリッジの上部から撮影した写真。上左図は本地すべりの滑落崖方向に(植生に覆われて見えにくいですが，右上に見えるのが滑落崖と思われる)，上右図は移動体末端方向に向かって撮影したもの。下図は，側方崖とナイフリッジの間に形成された凹地を撮影している。